

6月17日 ルカによる福音書5章1～11節

【解説と黙想】

人間を獲る漁師

1. はじめに

主イエスは、ガリラヤで神の国の福音宣教を始められました。最初は、諸会堂で教えられました。主イエスの話を聞いた人々は、その権威ある言葉に非常に驚きました。主イエスは、人々に権威ある言葉を語る以外にも人々を苦しめている悪霊をご自身が発する権威ある言葉によって追い出してしまうられました。また、多くの病人をもいやされました。このような圧倒的な力を持った主イエスを見た多くの人々が群衆となって主イエスのもとに押し寄せてくるようになりました。

2. 主イエスとの突然の出会い

ある朝、ゲネサレト湖畔に主イエスが立っておられた時も神の言葉を聞こうとして多くの人々が押し寄せてきました。主イエスは、押し寄せてくる群衆から逃れるためにたまたま岸にあった舟に乗られました。この舟は、シモンのものでした。シモンは、ゲネサレト湖で働く漁師でした。主イエスは、決して計画的にシモンの舟に乗ったわけではなく、群衆から逃れようとして乗った船がたまたまシモンのものでした。シモンは、ちょうど漁から帰ってきて、漁で使った網を洗っているところでした。あとで分かることですが、この日は、夜通し漁をしましたが、結局、一匹も獲れずに帰ってくることとなりました。主イエスは、シモンに舟を漕いでもらい、岸にいる群衆に向かって神の言葉を語り始めました。シモン・ペトロは、自分で意図したわけではありませんが、一番近くで主イエスの話を聞くこととなりました。これは、あまりにも突然の主イエスとの出会いでした。

3. 主イエスの不思議な命令

主イエスは、シモンの舟に乗って、岸にいる群衆に神の言葉を語り終えました。こ

れで目的は達成したように思えます。

ところが、その後、主イエスは、シモンに不思議なことを命じました。「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」。

この日の漁は、失敗に終わっていました。散々苦労したあげく、一匹も獲れませんでした。シモンをはじめ、漁師たちは、主イエスに出会う前、空しい思いで、網を洗っていたと思われれます。主イエスの話を聞いた後のシモンは、主イエスの言葉に懸けてみました。シモンは、こう言いました。「しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」。

するとさっき一匹も獲れなかったことがうそだったかのようにおびたらしい数の魚が網にひっかかりました。

4. 主イエスへの召命

シモンは、自分の舟に乗っている主イエスが自分とは違う聖なる存在であると知り、こう言いました。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」。

漁師シモンは、主イエスの圧倒的な力を目の当たりにしました。主イエスの力を知るといことは、自分自身の罪深さ、無力さをいやと言うほど思い知らされることでもあります。自分の罪深さを思い知ったシモンに主イエスは、こう言いました。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」。

シモンは、すべてを捨てて、主イエスに従っていきました。主イエスのために働くには、自分の罪深さをまず認めて、すべてを主イエスにあげ渡すことが必要です。主イエスは、今も聖書を通して、また礼拝を通して私たちに語りかけてくださいます。これからも子どもたちに語りかけてくださる主イエスの言葉に耳を傾けていきましょう。(浅野正紀)

6月17日 ルカによる福音書5章1節～11節

【説教展開例】

人間を獲る漁師

◇..... 単元のねらい◇

主イエスとの出会いは、思いがけない方法でやってきます。主イエスの圧倒的な力に接した時、人は、自分の罪深さを思い知らされます。主イエスの弟子として従っていくためには、自分の無力さと罪深さを思い知る必要があります。自分自身が主イエスの弟子としてふさわしくないことを知っている人こそ、主イエスは、弟子として用いてくださいます。

「ペトロを弟子にするイエスさま」

イエスさまは、ガリラヤで「神の国の福音」を宣べ伝え始めました。「神の国の福音」とは、神さまが共にいて守ってくださるといふ知らせのことです。

イエスさまは、ガリラヤのユダヤ人が集まる会堂でこの「神の国の福音」について語られました。イエスさまの話聞いた人々は、他では聞くことができない教えにとっても驚きました。イエスさまが語る言葉には権威があったからです。

イエスさまは、会堂で人々に「神の国の福音」について話すだけでなく、たくさんの病気の人をいやし、悪霊につかれた人から悪霊を追い出しました。悪霊につかれた人とは、生きていく上で、自分自身の存在をもおびやかすような問題を抱えている人のことです。イエスさまは、様々な苦しみの中で生きている人々からその苦しみの原因である病気や悪霊を追い出してくださいました。このように、イエスさまは、病気をいやし、悪霊を追い出すことで、神の国が人々に近づいていることを示しました。

こうして、イエスさまの周りには、「神の国の福音」を聞こうとする人々、病気をいやしてもらおうとする人々、悪霊を追い

出してもらおうとする人々がいつも押し寄せてくるようになりました。イエスさま一人で「神の国の福音」を宣べ伝えることは、もはや大変な状況でした。

ある朝、イエスさまは、ゲネサレト湖畔に立っていました。すると、多くの人々がイエスさまをみつけて集まってきました。こうして、たちまちイエスさまは、多くの人々に取り囲まれてしまいました。この時、イエスさまは、湖畔に二そう舟があるのをみつけました。この二そうの舟は、漁船で、ゲネサレト湖で、漁をしている漁師のものでした。彼らは、一晩中、漁をして、今まさに帰ってきたところでした。漁師たちは、イエスさまが人々に取り囲まれていたすぐ側で、漁で使った網を洗っていました。

イエスさまは、二そうのうち、シモンという漁師の舟を選んで、少し岸から漕ぎ出すように頼みました。シモンは、イエスさまを舟に乗せて、岸から離れました。イエスさまは、舟の上に腰を降ろしてから岸にいる多くの人々に向かって、「神の国の福音」について語り始めました。イエスさまに頼まれて舟を漕ぎだしたシモンは、一番近くでイエスさまの話聞くこととなりま

した。シモンにとって、思いがけないイエスさまとの出会いでした。

イエスさまは、話し終わると、シモンに不思議なことを命じました。「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい。」

シモンは、こう答えました。「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう。」

実は、漁師たちは、夜通し漁をしましたが、一匹も獲ることができず、朝を迎えたところでした。この夜の漁は、全くの徒勞に終わってしまいました。漁師たちは、恐らく悲しい気持ちで網を洗っていたのかもしれない。

シモンは、イエスさまの言葉に信頼して言われた通り、網を降ろしてみました。するとなんとたくさんの魚が網にかかりました。あまりにたくさんの魚が網にかかったため、網は破れそうになりました。そこで、もう一そうの舟にも来てもらいました。漁師たちは、獲った魚を、二そうで手分けして舟にいれました。すると二そうの舟は、魚でいっぱいになり、沈みそうなほどでした。

シモンは、この状況を見て、イエスさまの足もとにひれ伏して、こう言いました。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」。

ゲネサレト湖を知り尽くしているはずの漁師たちが一晩中、漁をしても一匹もとれなかったのに、イエスさまに従って網を降ろしたら、二そうの舟にいっぱいになるほどの魚を獲ることができました。

この時、シモンは、圧倒的な力を持ったイエスさまを前にして、まず自分の罪深さを思い知らされました。シモンは、自分にはこのイエスさまに近づく資格がないと考えました。そして、たくさんの魚が獲れたことにただただ驚いてしまいました。

すると、イエスさまは、シモンに言いました。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」。

この時、シモンも、また、シモンといっしょにいた漁師仲間であるヤコブとヨハネも舟を陸に引き上げて、すべてを捨ててイエスさまに従いました。シモンは、後にペトロと呼ばれるようになって、イエスさまの弟子の中でも中心的な役割を行うようになりました。

イエスさまのために働くには、自分の罪深さを認めて、すべてを捨てて、自分自身をイエスさまにあげ渡す必要があります。

イエスさまは、今も聖書を通して、また礼拝を通して私たちに語りかけてくださいます。このイエスさまにすべてを委ねて歩んでいきましょう。 (浅野正紀)

《今週の暗唱聖句》

すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。(ルカによる福音書5章10節b～11節)

6月17日

【幼稚科】

人間を獲る漁師

〈ねらい〉

主イエスは欠けや弱さを持っている人も愛し、導いてくださるお方ということを感じよう。

〈展開例〉

お父さん、お母さんはお仕事していますか？ どんなお仕事しているか知っているかな？

ではね、今から先生がヒントをいくつか出します。何のお仕事かな？ 当ててみてね。

- ① 重たいものを運んだり、引っ張ったりするので、力持ちです。
- ② 朝、とても早起きをします。
- ③ 船に乗ってお仕事をします。
- ④ スイスイ泳ぐ生き物を捕まえるお仕事です。

はい、そうですね。答えは漁師さんです。漁師さんは、魚をたくさん運んだりするので、とても力持ちなんですよ。

今日の聖書のお話しには、漁師さんが出てきましたね。

この漁師さんの名前は、ペテロさん、ヤコブさん、ヨハネさん、と言います。

ある時、朝早く起きて、魚を獲りに行ったのですが、この日は何回網を下ろしても、一匹も魚が獲れませんでした。

もう、家に帰ろうかな、とした時です。イエスさまが近くにいらっしゃって、「船を沖に漕ぎ出して、網を降ろし漁をなさなさい。」

と、おっしゃったのです。

ペテロさんは

「先生、私たちは夜通し苦勞したけれど、何も獲れませんでした。しかし、お言葉ですから網を降ろしてみましよう。」

するとね、なんと、びっくり！網がやぶれそうなくらい、たくさんの魚が獲れて2つの船が魚でいっぱいになったんです。ペテロさん、ヤコブさん、ヨハネさんは驚いて、イエスさまにひれ伏しました。

(ルカ5：8)

さあ、この後、どうなったでしょうか。

イエスさまがこうおっしゃったのね。

「あなたがたを、人間を獲る漁師にします。一緒についてきてください。」てね。

ペテロさん、ヤコブさん、ヨハネさんは、網を捨てて、すぐにイエス様についていきました。

イエス様は、自分の弱さを知る人と一緒にいて力づけてくださいます。嬉しいですね！

〈祈り〉

神さま、イエス様は、私の弱いところも知っていてくださって、その上で一緒にいてくださること、ありがとうございます。

〈やってみよう〉

- ・賛美歌 「人間を獲る漁師に」
- ・工作 画用紙に魚を書く。(クレヨン、色鉛筆、サインペン等)
ハサミで切り抜く。
あらかじめ書いておいた網に、魚を貼っていく

6月17日

【小学科上級・中学科】

人間を獲る漁師

1. イエスさまは今、どこにいらっしゃいますか。
2. その時、漁師たちは何をしていましたか。
3. イエスさまはどこでお話をされましたか。
4. それはなぜですか。
5. 話し終わった時、イエスさまは何とおっしゃいましたか。
6. シモンは2つのことを答えました。何と何ですか。
7. イエスさまの言葉に従って、網を下ろした結果はどうでしたか。
8. シモン・ペトロはなぜ「離れてください」と言ったと思いますか。
9. イエスさまはシモンに何とおっしゃいましたか。
10. イエスさまのよびかけに対して、シモンと仲間はどうに反応しましたか。
11. 漁師たちは夜通し漁をしましたが、何も獲れませんでした。苦勞したのに得られなかった経験が、あなたにはありますか。
12. イエスさまは、私たちの苦勞と必要を知っておられます。そのような方があなたの傍らにいてくださることについて、あなたはどのように思いますか。
13. 「人間を獲る漁師」とは、どのような仕事ですか。
14. イエスさまのよびかけに、あなたは答えたいと思いますか。